

沖縄担当大使通信
第8回 沖縄の歴史と文化

2026年（令和8年）8月31日



対馬丸慰霊祭（2026年8月22日、於：那覇市・小桜の塔）

沖縄の8月を初めて経験しました。熱い日差しがビーチにも照りつけて夏本番を感じる一方、時折の雨や台風にも悩まされました。那覇市内を訪れる多数の観光客を横目で眺めながら日々の仕事をしているうちに、早くも8月の最終日を迎えてしまいました。

今月を振り返ると、沖縄の歴史や文化を感じ、そして考えさせられる行事に出席する機会が数多くありました。特に、8月22日の対馬丸慰霊祭では、疎開船の撃沈により犠牲となった子どもたちやご家族に思いを致し、平和に向けての決意を新たにしました。そのほか、今月は沖縄空手世界大会の演武大会、県系人子弟の研修生受入れ事業開講式、与那原大綱曳、名護市豊原区の夏まつりなどに参加して、伝統や文化が長年にわたり受け継がれ、多くの人たちに共有されていることを実感しました。

今回の沖縄担当大使通信では、今月出席した一連の行事の報告を通じて、沖縄の歴史や文化について感じたこと、考えたことを報告させていただきます。



対馬丸慰霊祭でのオオゴマダラ放蝶
(2026年8月22日、於：那覇市・小桜の塔)

●対馬丸慰霊祭

1944年8月22日、学童集団疎開船の対馬丸が米潜水艦の魚雷攻撃で撃沈され、学童784名（15歳以下の子どもは1040人）を含む1484名が犠牲になりました。今月22日、この犠牲者の御霊の冥福と世界の恒久平和を祈念するため、令和8年度の対馬丸慰霊祭が、那覇市旭ヶ丘公園内の小桜の塔で挙行されました。

黙祷の後、対馬丸遺族会と児童合唱団の子どもによるオオゴマダラの放蝶が行われました。いくつかの蝶はなかなか小桜の塔を離れず、名残惜しく思っているかのように感じられました。読経や合唱、主催者の対馬丸記念会代表理事による追悼のことば、来賓による弔辞に耳を傾けた後、焼香を行いました。多数の子どもたちが犠牲となった悲慘な事件から82年を過ぎた今も、本当に大勢の方々が小桜の塔に参列し、焼香していたことに深く思いを致しました。

慰霊祭の後、対馬丸記念館を改めて訪れ、当時の歴史を学ぶとともに、平和に向けての決意を新たにしました。今日に至るまで対馬丸事件を語り継いできた多くの皆様の思いを受けて、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境の中で、日本と地域、さらには世界の平和を実現するために、ここ沖縄から日々外交に取り組んでいきたいと思いをします。



第3回沖縄空手世界大会・演武大会
(2026年8月2日、於：宜野湾市・沖縄コンベンションセンター)

●沖縄空手世界大会

沖縄で生まれ世界に広がった代表的な文化の一つが空手です。7月30日から8月2日まで、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで、第3回沖縄空手世界大会が開催されました。今回の大会から、少年少女を対象とした「競技大会」と、一般を対象とした「演武大会」を統合して、4年に1度の同時開催とし、49の国と地域から延べ3千人の空手愛好家が参加したとのことです。

今回、実行委員会の招待を受けて、最終日の8月2日の演武大会に出席しました。沖縄空手や古武道の流派ごとに、少年少女や一般の空手家が次々と舞台上に上り、様々な型を披露する技を見ることができました。いずれの流派も外国人が多く、国際色が豊かでした。また、車椅子の障害者も出演し、舞台上一緒に型を披露していたことにも胸を打たれました。

沖縄空手を通じて日本に親しみを持ち、日本を訪問する外国人も多いと思います。沖縄独自の文化が持つ様々な魅力を世界に生かすことで、日本の国際交流の幅を一層広げていきたいと改めて感じました。



第 38 次世界のギノザンチュ子弟研修生受入事業開講式後の懇談会
(2026 年 8 月 3 日、於：宜野座村中央公民館)

●世界のギノザンチュ子弟研修生受入事業

翌日の 8 月 3 日、宜野座村で第 38 次世界のギノザンチュ子弟研修生受入事業開講式が開催され、私も招待を受けて出席しました。会場の中央公民館には、眞淳宜野座村長をはじめ村役場職員や村議会議員、研修の講師、受入れに当たる研修員の親戚や国際交流員など多数の村民が集まっていました。ペルー、アルゼンチン、ブラジル、米国（ハワイ州）からの研修生 4 名は、既に母国で日本語を勉強しており、メモを参照しつつ日本語で堂々と自己紹介していました。

宜野座村は、沖縄の他の自治体に先駆けて 1986 年に本事業を開始したとのことです。私からは、開講式で歓迎の挨拶を述べるとともに、式が終わった後に研修生と懇談しました。研修生はいずれも若手の社会人で、自らの研究・学習テーマを決めており、この研修の機会を能動的かつ積極的に活用していました。研修生は今後 3 か月間、日本語講座・文化研修・琉球舞踊研修を受け、村内外を視察するとともに、村内の小中学校などで交流を行い、村まつりなどの行事で研修の成果を披露する予定とのことです。本年も充実した研修となるよう願っています。



与那原大綱曳（2026 年 8 月 16 日、於：与那原町御殿山青少年広場）

●与那原大綱曳

8 月 16 日には、450 年余の伝統を誇る与那原大綱曳が開催され、私も初めて観戦させていただきました。最初に会場の東と西の入り口から、旗頭を先頭に、数名の役者を綱の上に乗せた大綱曳行列が入場します。間もなく会場の広場が満員となり、ドラ・ボラに合わせての前舞いが行われて大いに盛り上がります。その中で双方の綱がカナチ棒で繋がれ、綱曳が始まります。数分間の熱戦の後、1 回目の本戦は東、2 回目は西が勝利しました。熱気に包まれた会場で 1 時間あまり観戦して、伝統行事の迫力とすばらしさに強い感銘を受けました。

与那原町を挙げての行事で、例えば前舞いには町立中学校の生徒が参加しているとのことでした。行事の司会者も、親子三代で引き継いでいる由です。様々な役回りを町全体で担っているからこそ、強い求心力があると感じました。

今回使われた綱は、昔ながらの方法で前日深夜にようやく完成し、9 月に開催する久米島まつりでの大綱曳きにも使われる予定と聞きました。また、沖縄では 9 月の糸満大綱引、10 月の那覇大綱挽も有名なので、できればそちらも観戦して比べてみたいと思います。



豊原区夏まつりのシャボン玉パフォーマンス
(2026年8月15日、於：名護市豊原多目的広場)

●豊原区夏まつり

同じ週末の8月15日に、名護市豊原区で夏まつりが開催されました。宮城直美豊原区長、渡具知武豊名護市長の挨拶に加え、地元の子どもによる獅子舞やエイサー、沖縄県北部地域を中心に活動する LinoLino によるシャボン玉パフォーマンス、ビールうま飲み大会やカラオケ大会、そして打ち上げ花火など盛りだくさんのプログラムでした。最後に納涼踊りとカチャーシー、万歳三唱で閉会しました。

地元の豊原区の皆様をはじめ、同じ地域にある辺野古区・久志区や名護市、沖縄防衛局や在沖米軍、そして外務省沖縄事務所から私も招待をいただいて参加し、踊りや行事を楽しみながら交流を深めました。

私は幼少期に東京と横浜で過ごしましたが、都会のためか地元の行事にはほとんど参加した記憶がありません。今回、豊原区の夏まつりに参加して、子どもたちからシニアまで同じ行事を楽しみ、さらには周りの人たちが温かく受け入れる文化が今も続いていることをすばらしいと感じました。



米国建国 250 周年記念・ゲート通り日米合同清掃活動
(2026 年 8 月 2 日、於：コザミュージックタウン)

●沖縄の歴史と文化を学び、伝え、生かす

以上のような沖縄の歴史や文化に関連する行事のみならず、今月も在沖米軍や自治体首長との意見交換、そして日米交流事業に日々取り組んでいます。8 月 2 日には、沖縄市のゲート通りで、センター自治会をはじめ地域住民と米軍関係者の共同清掃活動に参加しました。この活動は毎週行われていますが、この日は米国建国 250 周年記念行事として、アンドリュー・オウ在沖米国総領事や花城大輔沖縄市長、そして「アメリカで沖縄の未来を考える」(TOFU) プログラム参加者も加って、記念 T シャツや帽子を着用して清掃に取り組み、終了後に参加者間の交流を行いました。

沖縄の歴史や文化を学び、理解を深めることは、外務省沖縄事務所の仕事の大きな前提になると考えています。これからも機会を捉えて様々な行事に参加し、沖縄の様々な魅力を世界に発信するとともに、平和を希求する思いを胸に刻んで日々の仕事に生かしていきたいと思っています。

沖縄担当大使
紀谷昌彦